

校内研究 提案

1. 校内研究について

校内研究のおさえ

学校全体の課題に対して、どのような手立てを取ると良いのかを考え、実践したことを評価し、みんなと共有していく。

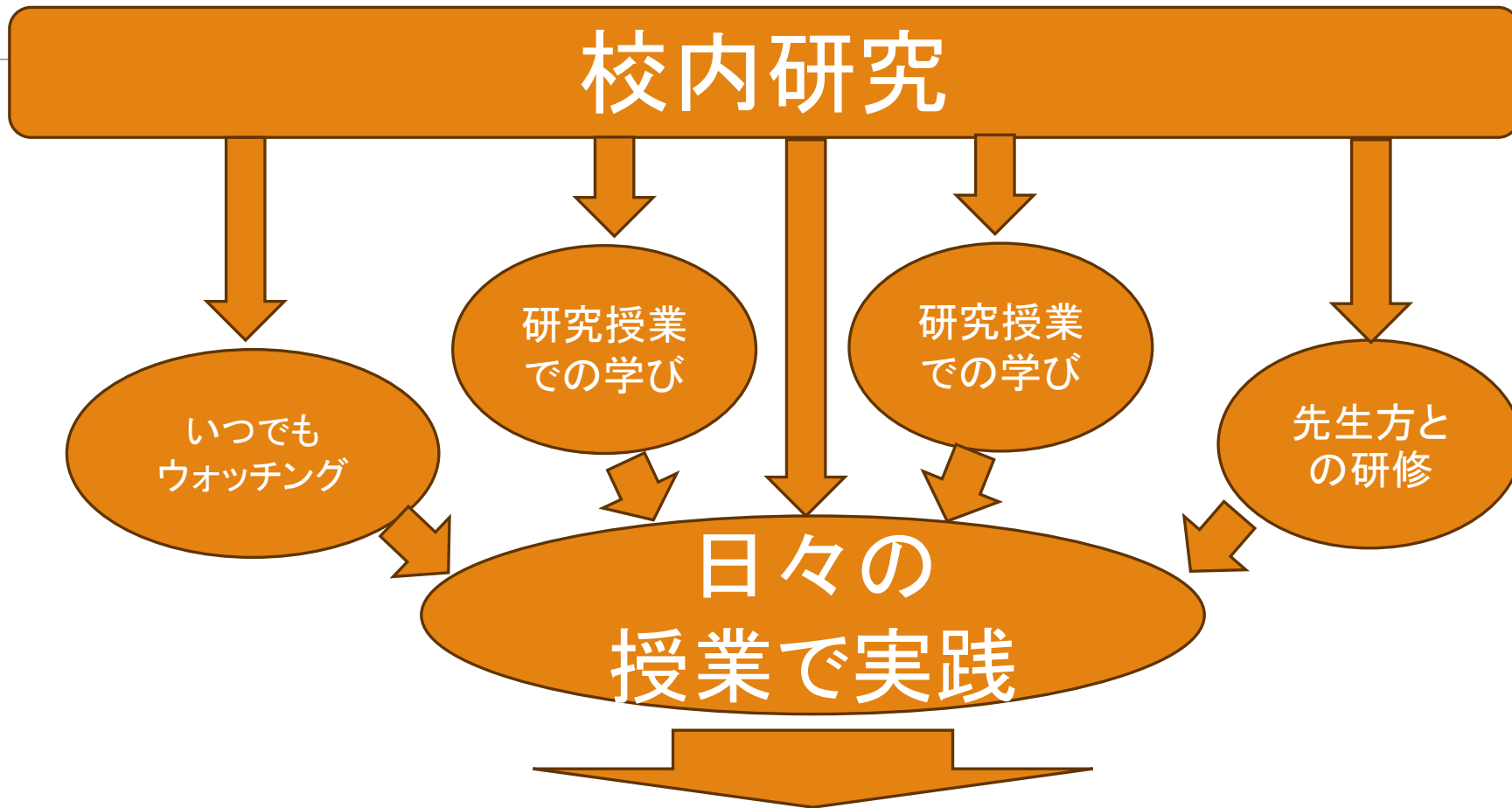
校内研究のおさえ

校内研究で得たことを
日々の授業に生かし、改
善を図っていく。

校内研究のおさえ

みなさんの指導力（授業力）アップ、児童の学力アップを目指す。

校内研究イメージ



授業力アップ！ 児童の学力アップ！

みなさんで、力を高め
合っっていきましょう！

2. 研究テーマについて

これまでの校内研究

自己調整学習

→自分の学習を振り返る
ことを重点におく。

これまでの校内研究

個別最適な学びと協働的な学び

→自分の学習のしかたを選択し、自分に合った方法で学習する。

→仲間と共に学び合ったことを自分の学習に生かす。

これまでの校内研究

対話を通して、深い学びへ

→ 問いをもち、対話をして、自分の考えとの共通点、相違点から考えを深める。

この部分を
研究する！

教育的課題

児童の課題・
実態

教師が課題に感
じていること



今日的教育課題・・・

- ・ 主体的・対話的で深い学び
- ・ 探究的な学習
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

主体的・対話的で深い学びとは・・・

主体的な学び

→ 見自な 学通らげ 習し振る のをり 目標返 標返 意粘次 義りの 強学 理解くび に 学びつ

主体的・対話的で深い学びとは・・・

対話的な学び

→他者との協働や対話を通して、自分の考えを広げたり深めたりする学び

さらに・・・

- ・子ども同士の協働
- ・教師、地域の人、先哲の
考え方などとの対話を通し
て考えを深める

主体的・対話的で深い学びとは・・・

深い学び

→ 知識を関連付け、教科の
「見質」を働かせ、
本質的な方理的な理解を
深め、課題解決につ

その他にも . . .

- ・ 正解のない問いに向き合う力
- ・ 他者と協働しながら最適解を探る力
- ・ 自ら学び続ける力

児童の課題

- 対話の「深まり」が十分でない
- 学びの連続性が弱い
- 主体的な学習姿勢に個人差がある

先生方の課題

- 対話をどう深めるかの手立てが十分でない
- 単元全体を通じた設計が弱い
- 振り返りが学習内容中心になりがち

今年度校内研究テーマ

自ら問い、ともに深める
上小っ子の育成

今年度校内研究テーマ

～問いを軸にした学び
の組み立てと対話のある
授業づくり～

研究内容（方向性）①

主体性を育てる

「学びの組み立て」の工夫

→ 児童が受け身ではなく、自ら問いをもち、見通しをもつて学習に取り組む学びの流れをつくる。

具体的には・・・

- ・単元の導入で「必要感のある問い」をどう生むか
- ・児童が問いを立てる場面の設定方法
- ・問いが持続する単元構成（問いの連続性）
- ・「学習内容」だけでなく「学習過程」を振り返る仕組み
- ・ICTや思考ツールを活用した問いの可視化
- ・単元構想シートの共同作成

研究内容（方向性）②

対話の質を高め、学びを
深める授業づくり

→活動としての対話ではなく、
思考を揺さぶり、考えを再構
築する対話を目指す

具体的には・・・

- ・ 対話の目的の明確化（何のための対話か）
- ・ 対話の視点の提示の仕方
- ・ 深まる対話の手立て（比較・根拠・再構成）
- ・ 対話の途中での教師の関わり方
- ・ 振り返りで対話の価値を実感させる方法
- ・ 学びの連続性を生む対話の位置付け

【学校教育目標】 まなぶ子 かかわる子 つくる子

【令和7年度 重点目標】 「わかった！できた！をその先へ」
～子どもたちを主人公とした授業づくりを通して～

【令和8年度 研究主題】

自ら問い、ともに深める上小っ子の育成
～問いを軸にした学びの組み立てと対話のある授業づくり～

【目指す児童像】

問いをもち、自分の考えをもって学び、対話を通してよりよい考えへと高めていく子

【研究内容①】

主体性を育てる

「学びの組み立て」の工夫

児童が受け身で与えられた問いを考えるのではなく、自分ごととして問いをもち、学習を進める姿を目指す。

【研究内容②】

対話の質を高め、

学びを深める授業づくり

活動としての対話ではなく、思考を揺さぶり、考えを再構築する対話を目指す。

3. 校内研究の進め方

研究の流れについて

- ・ 授業研究は年に1回。
(11月下旬～12月上旬を予定)
- ・ 前半は研修がメイン、後半は授業研究がメインの2つのパートに分ける。
- ・ 研修については、ICTの実技、授業づくりなどの予定。

公開授業について

- ・低学年、高学年、特別支援のグループを作る。
- ・各グループで1人授業者を決める。
- ・指導案はグループで作成し、全体で検討する。
- ・事後に評価・分析を行う。

いつでもウォッチング

他の先生方の実践を見に行く取組。

空き時間等を利用して行う。

45分間参観しなくてもOK。

自分の実践を見てほしい方は、先生方に周知して、見に来てもらってもOK。

いつでもウォッチング

他の先生の授業を見て、刺激をもらったり、技術をぬすんだりすることが最大の目的！

いつでもウォッチング ウィークについて

- ・いつでもウォッチングの強化週間。
- ・早めに連絡し、先生方一人一人計画的に進めていただく。

3. 上富良野町授業 スタンダード

導入について

<導 入>	
既習事項の振り返り (必要に応じて)	<input type="checkbox"/> 習得した知識・技能を新たな課題の解決に向けて活用する意識の醸成 <input type="checkbox"/> 思考力・活用力の伸長
課題の設定	<input type="checkbox"/> 知的好奇心をゆさぶり、主体的に学び続けるための意欲や必要感をもたせる課題の設定(まとめと正対させる) ・「なぜ、～なのか」 「～することはできるだろうか」 「どうしたら～できるのだろうか」等の疑問形を基本
ゴールの提示	<input type="checkbox"/> ゴールは、児童生徒の行動目標(～～できる等)で提示 <文末例>書く、述べる、指摘する、説明する、区別する、解く、分類する、企画する、つくる、結論する、図示する、回答する、公式化する、予測する、操作する、完成する、測定する等
解決の見通し (必要に応じて)	<input type="checkbox"/> ゴールに至るまでの手順や時間配分、解決するための方策等

展開について

自力解決	<input type="checkbox"/> 協働的な学びの前に自力解決の時間の確保
共有	<input type="checkbox"/> 個別最適な学びを支えるための学習環境の工夫 (板書構成・資料提示・ICTの利活用等)
	<input type="checkbox"/> 共感的・協働的な学びによる知の再構成 <ul style="list-style-type: none">・自分と同じ考え方に触れながら、学びの确实性を高める・自分とは異なる考え方に触れながら、学びを深める・広げる
	<input type="checkbox"/> ペアや小グループ(3~4人)での交流、児童生徒の自発的な交流
	<input type="checkbox"/> 協働的な学びを促進するための学習環境の工夫 (板書構成・資料提示・ICTの利活用等)

終末について

	<p>□本時の課題に対するまとめ・結論（課題と正対させる）</p> <ul style="list-style-type: none">※児童生徒によるまとめ※教師はまとめのポイントを示すのみ（キーワードや条件等の設定）
まとめ・振り返り	<p>□学んだことの整理（単なる感想ではない）</p> <ul style="list-style-type: none">・学びの成果を実感させ、学んだことや意欲、問題意識等を次につなげられるように、振り返りの視点を設定する <p>[目標に対して] [協働的な学びの把握] [生活とのつながり]</p> <p>[自己の変容] [学びの自覚・意義・意味]</p>

1年間

よろしくお願ひします！